

## 【進学】平成30年度卒業生合格体験記 ～先輩からのアドバイス～

### (1)「一番大事にすべきこと」

(普通科 → 滋賀大学 経済学部 企業経営学科)

私は、推薦入試で志望校に合格しました。推薦入試を実際に受けて、私は高校生活を楽しんでいて良かったと心から思いました。私は自分の好きなことに積極的に取り組んできました。清風祭の実行委員や、学芸課、商業検定などがその例です。文化祭が好きとか、友人に誘われたとか、商業科の友人と遊びでやっていた簿記が楽しかったとか、どれも単純な動機で始めたことですが、好きなことだから勉強との両立も大変ではあっても苦ではありませんでした。そしてそれが実際に推薦入試でのアピールポイントとなって役立ちました。

推薦のためにやりたくないことをやる必要はありません。その代わりに、好きなことに一生懸命取り組むべきです。生徒会等の王道の実績ではなくても、それが必ず自分のアピールポイントとなります。誕生日サプライズの企画が好きということもアピールになったくらいなので大丈夫です。高校生活を全力で楽しみながら実績を創ってください。

そして、受験において私が一番大事にするべきだと思うのは、将来について考える時間です。私は、昔からぼんやりと大学に行きたいと思っていましたが、興味のある学問は全くありませんでした。進路希望調査が配られるたびに、近くの大学や学部を調べましたが、それでも分からなくて、かなり焦っていたと思います。しかし、その時間があったから、どの学部がどんな勉強をしているのか、同じ学部での大学による違いは何なのかなど、細かい所まで知ったうえで、本当に自分に合っていると思える進路を決めることができました。私は最終の志望校を決めたのが3年生の夏で1年生から調べていたことを考えれば本当に多くの時間を費やしました。良いと思った学部のオープンキャンパスへ行ってやっぱり違うと思ったこともあるし、かなりの遠回りだったと自分でも思います。それでもこの時間が無駄ではなかったと自信をもって言えるのは、志望校を決定してからの勉強へのやる気や集中力が本当に良い方へ変わり、合格のための効率的な勉強方法も見えるようになったからです。悩みに悩んだ進路だからこそ、絶対に合格したいと思えるし、受験勉強も頑張れるのだと思います。本当に自分に合った進学先へ進めるよう、将来について考える時間を大切にしてください。

私は今、春から滋賀大学で学べるのが凄く楽しみです。来年の春、そう思えるように限りある時間を有意義に使ってください。頑張れ受験生！！

### (2)「多くの人に支えられて」

(普通科 → 岐阜大学 教育学部 学校教育教員養成課程国語教育講座)

私は運動系の部活に入っていて、1年生から引退するまで勉強より部活動を優先してしまうことが多くありました。ただただ与えられた課題をやり終えることだけ考えていたため、自分の力にはなっていませんでした。3年生になるまで日々の積み重ねの大切さに気付けずにいました。模試の結果はひどいもので、第1志望の大学の合格ラインからは程遠かったです。

私の場合、毎日の勉強時間を増やすこと、基礎をきちんと固めることからが受験勉強のスタートでした。ですが、毎日繰り返し行うことで当たり前のように勉強ができるようになりました。試験では今までやってきたことを出し切り、合格することが出来ました。

私は家では勉強に集中できなかったため、土日でも毎日学校で勉強しました。それが出来たのも担任の先生が毎日学校に来て下さり私たちが学習する環境を作ってくくださったおかげです。

同級生で早い時期に進路が決まってしまう人が多い中、試験に向けて勉強するのは思っていたよりも辛いものでした。ですが、一緒に自習室で勉強したり、夜遅くまで問題に取り組んだりした仲間に刺激され、自分も最後までやりきることができました。

仲間の他にもいつも勉強を優先してくれた家族、進路で悩んでいた時親身になって相談に乗ってくださった先生方、たくさんの方のおかげでわたしは合格出来ました。周りの存在は大きく、とても感謝しています。

私が1つ後悔していることは、志望校を決めたのがとても遅かったことです。わたしは国公立に行くという抽象的な目標しか決めておらずやりたいことや興味あることについて考えていませんでした。たくさん先生方に相談に乗って頂き、自分でいろいろと考え親と相談した結果、教師という道を選びました。その選択に後悔は全くありませんが、早く準備をしていたら余裕をもって取り組めたのかなと思います。受験をするにあたって学力はもちろん自分の学力や関心があることを知ることは不可欠です。受験に向けての準備が早すぎるということはありません。早ければ早いほど良いと思います。自分がいざ帰路に立った際に後悔しない選択をしてください。

色んな話を聞いて受験することに対して皆さんは憂鬱な気持ちになっているかもしれません。ですが、最後までやりきったことは結果がどうであれ自信につながり、自分の財産になります。辛いことも多いですがその分結果が出た時の喜びは言葉では表せないほどです。長いし早く終わりたいと思っていましたが受験は終わってみれば一瞬です。後悔しないように自分ができる最高のことをしてください。自分を信じて頑張ってください。応援しています。

### (3)「諦めない心」

(普通科 → 都留文科大学 教養学部 地域社会学科)

私が進路をしっかりと決めたのは12月頃でした。11月の初めまで部活をしていて、勉強だけに集中したのはそこからでした。元々、定期テストの順位はクラスの下の方だったし、模試の判定もすごく悪かったです。夏休み頃にクラスの子達が部活を引退して、勉強に本腰を入れ始めているのを見て、焦りを覚え、勉強をしないと本当にやばいと思い始めました。そこで、部活の合宿の行き帰りのバスでは参考書を開いて勉強をしたり、宿舎で夜勉強をしたり、空き時間を見つけて勉強をするようにしました。空き時間に単語をやったおかげで、元々100点もとれなかった英語の過去問で、センター直前に高得点を取れました。でも、センターでは6割にも届きませんでした。1,2年生のとき、ほとんど勉強をしていなかったもので、1,2年生のうちから単語テストなどをもっとしっかりやっておけば、3年生になってからの単語に使った時間を他のところに使えたので、もっと早く勉強に取り組んでおけばよかったと後悔しています。

私が合格することが出来た学校のセンター試験でのドッキング判定は、E判定でした。なので、受けることも迷いましたが、小論文試験との点数の割合で、逆転があるかもしれないということで、受けることにしました。私は中期試験を受けたのですが、前期試験を受けませんでした。そのおかげで、約1ヶ月小論文の練習だけに費やすことができました。前期試験を受けるかどうか迷ったけれど、中期試験1本にしぼったことで合格できたと思うので、よかったです。

私は、私立で受けた学校もE判定でした。それでも受けてみて、合格することができました。判定を参考にして受ける学校を決めるのは当たり前だけど、判定が悪いからといって受けることをやめたら、チャンスを捨ててしまうのと同じことなので、とりあえず挑戦することが大事なのだと気づきました。正直、国公立は受けたくないし、合格はできないと思っていたけれど、先生や、親と話して受けることになり、たくさん応援していただいて、すごく励みになったし、頑張ろうと思えたので、本当に周りの方々のおかげだと思います。

諦めなければいい結果があるし、たとえ結果が出なくても得られるものがたくさんあるとわかったので、これから先も諦めず、最後まで向かっていこうと思いました。

#### (4)「三つの試験」

(普通科 → 岐阜大学 医学部 看護学科)

第一志望の大学に合格できた時は今までで最も幸せな瞬間でした。みなさんにも同じ喜びを味わってほしいと思います。長い受験勉強は辛い時もありますが、得た知識は一生の財産になります。

ここで、私は三つの試験について話します。最初に推薦入試です。私は第一志望の大学に行けるチャンスがあれば全て挑戦したかったので推薦入試を受けることに決めました。もちろん早く進路を決定したいという思いも強くありました。結果は不合格でしたが、絶対一般で受かってやる！という気持ちが強く芽生えました。とても貴重な経験をしたと思います。

次にセンター試験についてです。まずは、とにかく過去問を解いて形式に慣れることが大切だと思います。センターは独特の雰囲気があります。その雰囲気に飲まれないようにするには、センター当日までの勉強によって、どれだけ自信をつけるかだと思います。また、マークミスに要注意です。私は試験中に見直しをしたとき、何度もマークを間違えていて焦って直しました。今思い出してもゾッとします。当日は問題を解き、見直しができるような余裕が必要です。私はセンターの判定がCでしたが、第一志望を変えるという考えはありませんでした。判定に一喜一憂せず冷静に判断してください。

最後に二次試験についてです。センターと同様にまずは過去問を解いて傾向をつかむことが大切です。毎年出題形式は変わるものとして色々な問題に対応出来る力が必要となります。私は二次試験を英語と国語で受けました。英語はとにかく単語力と文法力が必要です。国語は記述なので必ず先生に頼んで添削をしてもらいました。そうすることで、採点基準が明確に分かり、新しい知識も増やすことができました。

受験を通して、私はたくさんの人に支えられていたことに気付きました。先生方が指導や添削をして下さったおかげで自信ができました。家族は一番近くで応援をしてくれ、安心できる空間をつくってくれました。友人とはお互いに励まし合い、最後まで前向きに受験に臨めました。改めて感謝を伝えたいです。今振り返ると、推薦入試、センター試験、二次試験という目標に向かって毎日努力を続けてきた日々は本当に充実したものだったなと思います。自分が本当に進みたいと心から思える進学先を見つけてください。そして、最後まで自分の意思を貫いてください。みなさんの活躍を楽しみにしています。

#### (5)「視野を広げる」

(普通科 → 岐阜大学 医学部 看護学科)

私が志望校に合格することができたのは先生方、先輩、友達、家族、地域のみなさんをはじめ、たくさんの方々の応援、サポートのおかげです。言葉に表せないほど感謝しています。本当にありがとうございました。みなさんに恩返しができるよう、多くの経験を積み、1人の人間としても看護師としても大きく成長します。

私が受験を通して学んだことは“視野を広げる”ということです。私は高校入学時から2年生の夏まで、あるひとつの志望校に絞っていて、他の学校に興味を持っていませんでした。2年生の夏休みにもオープンキャンパスはその大学にしか行きませんでした。しかし、二者面談などをきっかけにもっと大学のカリキュラムや、附属病院の有無など様々なことを知り、自分の学びたいことが学べる学校を選ぶ必要があるのだと感じ始めました。それからはパンフレットを取り寄せたり、進路相談会等に参加したりするなど、情報を集めると共に、自分がどのような看護師を目指すのか、そのためには何を学ぶ必要があるのかを明確にしました。最終的に決定するまでたくさん悩み、何回も志望校を変えました。3年生の夏には多くの学校のオープンキャンパスに参加したのですが、それが決め手となり最終的に志望校を決定しました。

今、志望校を絞っている人も少し視野を広げて他の学校を知ると、もっと自分に合った学校が見つかるかもしれませんし、今の第1志望校の良さを感じられると思います。特に推薦入試を考えている人は、その学校でなければならない理由や志望した理由を聞かれる可能性があるため重要です。是非様々な学校の情報を知ること、オープンキャンパスに積極的に参加することをオススメします。

そしてもうひとつ言いたいことがあります。推薦入試においても、センター試験に向けて勉強している時

も、部活動で培った忍耐力、生徒会や行事で得た計画性、友達との日常やアルバイトで身につけたコミュニケーション能力など、他の分野の経験が役に立つことが多々ありました。視野を広げてみると他の分野からヒントが得られると思います。そのためにも今自分が行なっている活動をしっかりとやり切り、たくさんの方の事を吸収し、引出しを増やして欲しいです。今は役に立たないと思っていることでも、いつかそれに感謝する日が来るかもしれません。

高校生活は風の様にあっという間に過ぎ去ります。悔いがないように全力で楽しんでください！

## (6) 「後悔しないために」

(普通科 → 富山大学 医学部 看護学科)

私は、5月まで部活をやっていたので、本格的に勉強を始めたのは夏休みでした。私は、部活動で悔しい思いをして、後悔している事があったので、勉強では同じことを繰り返さないように絶対最後までやりきろうと思いました。

夏休みは、苦手科目に専念しました。得意だった理数系は、復習するだけにして、苦手な文系科目に力を入れました。特に英語には時間をかけました。英語で大切なことは、単語力なので、まずは **Database** を完璧にしました。単語力がついてくると、少しずつ文章の内容が分かるようになってきて楽しくなりました。文法は、**VINTAGE** をやりつつ、授業やサテラインで聞いたことをノートにメモして、空いている時間に目を通しました。

その他には、古典と地理を一から勉強しました。古典は、単語を覚えて、とにかく古典の文章に慣れるようにたくさん読みました。地理は、参考書を買って、それを何度も読み、大事な所は地図帳に書き込みました。

また、私は12月にセンターを課す推薦入試を受けました。内容は、小論文と面接です。センター試験の勉強もしなければいけない状況の中、苦手な分野だったのでごく焦りました。思っていたよりも、小論文と面接に時間を費やすことになったので、不安が大きかったです。でも、毎日放課後にいろいろな先生と面接練習をし、小論文も参考書を読んで毎日書きました。どちらも、回数を重ねる度に慣れてきて自信を持って出来るようになりました。

推薦入試を受けたので、その分センターの勉強に遅れを取ってしまいましたが、小論文や面接の勉強のおかげで、語彙力があがり、現代文の点数が上がりました。私は、現代文が苦手を取れないことを前提にしていたので、そこはとても良かったです。

センターが近づくとつれて、焦りがすごくて、逃げ出したくなる時がたくさんありました。特に、冬休みが一番辛かったです。でも、そんな時支えになったのが同じ目標に向かって頑張っている仲間存在です。やめたくなっても、みんなが頑張っているから頑張ろうと思いに向かうことができました。センターの日もみんな励ましあって、最後の1秒まで諦めないで取り組みました。同じ思いを経験しているからこそ、良い刺激になり、頑張る源でした。仲間には本当に助けてもらい、心から感謝しています。

勉強している時は、辛かったし、逃げ出したくもなりましたが、今終わって考えると、頑張ってたよかったです。この経験が、私にとって大きな自信になったし、かけがえのないものになりました。みなさんも最後まで頑張ってください。応援しています。

## (7) 「受験勉強を振り返って」

(普通科 → 富山大学 医学部 看護学科)

私がまず思ったことは推薦入試を受けるチャンスがあるのなら受けてみると良いということです。私は推薦入試を受けるかどうかとても悩みました。それは試験の内容が小論文と面接で、センター試験で6割5分取っていることが条件だったからです。私は確実にセンター試験で結果を残す自信がありませんでした。それなのに、センター試験前に小論文と面接で時間を取られるのが嫌でした。けれども、両親や先生方に推薦入試を受けることは他の人よりも1回合格のチャンスが多いという事だから受けてみるといいと説得されて

受けることにしました。やってみて思ったことは、限りある時間を取られるという焦りはあったけど、時間に追われることでより短時間に効率よく集中して勉強に取り組むことが出来るということです。このようにして学力と結果に繋がったと思います。また受けるだけでもいい経験になったので、挑戦するべきだと思います。

次に勉強方法です。勉強方法は色んな人がそれぞれ違う事を言います。それらは全て正しい事だと思いますが、大切なのはどれが自分に合っているのか見極めて取り入れることです。実際によく、睡眠時間を削って勉強しないと、という話を聞きますが、私は睡眠を削ることで集中力が低下してしまったので、朝8時から勉強して12時と7時に1時間休憩し24時まで勉強するというリズムを作りました。このようにして自分の勉強スタイルを見つけるといいと思います。

最後に、私が後悔している事です。私は部活をしていた頃、部活の事ばかり考えていて進路や勉強のことはあまり考えていませんでした。だから家庭学習も入試を意識したものではなかったし、進路を決定したのも10月でした。今、皆さんは「卒業生は本格的に勉強をし始めたのは遅かった」という話を聞いて、もっと早くから始めなければいけないと思っているかもしれません。私も1年前は同じ感想を持ちました。しかし実際は先輩方の助言を生かすことが出来ず、同じ事を後輩に伝えています。この経験から伝えたいことは、今から自分の進路と向き合ってほしいということです。そして合格するための努力を少しずついいから始めてほしいということです。

入試で失敗する人もいると思います。私はセンター試験の前日にとっても不安を感じました。皆さんには不安や焦りを原因に合格を逃して欲しくありません。だから不安にならないための努力を今のうちから積み重ねて下さい。失敗を恐れず最後まで諦めずに挑戦し続けて下さい。

## (8)「夢への挑戦」

(普通科 → 立命館大学 政策科学部 政策科学科)

私は4月から、立命館大学の政策科学部、政策科学科に進学します。私はこの大学にAO入試で合格しました。私がこの学部のAO入試を選んだ理由は、二つあります。一つ目は、合格すれば、早く進路が確定するという事です。私は女子バレーボール部のキャプテンを務めていて、3年生に進級してからも部活動に力を入れていました。そのため、一日でも早く進路を決めて、部活動に専念したいという思いがあり、AO入試を受けようと思いました。

二つ目は、学力面以外でも評価してもらえるということです。一般入試は、教科の筆記試験で合格が決まりますが、AO入試では、エントリーシートや面接、レポート、グループディスカッションなど様々な試験があります。私の場合は、1次試験で大学教授の講義に対するレポートの提出、2次試験ではグループディスカッションがありました。どうしてもこの学校に行って学びたいという、強い目標がある人は、AO入試に挑戦することを勧めます。

この大学の政策科学部は、社会問題を様々な視点から考え、その解決策をフィールドワークを通して考えていくという学部です。私がこの大学を選んだきっかけは、先輩からの紹介でした。将来、海外で仕事をしたいと考えており、語学だけでなく幅広い分野から海外のことを学んでいけるこの学部を知り、受験することを決めました。大学には、様々な学部学科があります。自分は将来どんなことをしたいかをよく考え、進路研究してください。また、その大学の雰囲気を知ることも大事だと思うので、興味のある学校のオープンキャンパスには、積極的に参加してください。

1次試験のレポートによる試験は、短時間で自分の意見を論理的に書く力と、要約する力が求められます。あらかじめテーマが発表されているので、事前に準備することはできますが、全員が同じ条件です。私はレポートの試験の対策を考えながら、エントリーシートでも高評価を得られるように、考えて文章を書きました。志望動機や大学で何を学びたいか、卒業後の進路について、両親や先生方に見ていただき、何度も書き直しました。エントリーシートで、自分がこの学校に入りたいという思いを強くアピールすることができた

と思います。

試験の倍率は比較的高かったのですが、私は絶対AO入試で決めるという気持ちで、本を何冊も読み、インターネットで情報を集め、先生方に意見を聞くなど自分ができることは精一杯取り組んできました。試験当日は緊張しましたが、挑戦する気持ちで全力を出しました。それが合格につながったのだと思います。皆さんも志望校を諦めず、夢に向かって頑張ってください。

### (9) 「Believe in yourself, and your dream will come true someday」

(総合学科 → 愛知大学 経済学部 経済学科)

私は三年生の夏に志望校を決めました。そのころ、教室に指定校推薦の一覧表が掲示されていましたが、私の行きたいと思っていた大学は、総合学科では募集していませんでした。だから指定校推薦で安全に合格するか、行きたい大学を公募制の一般推薦で受験するかで非常に迷いました。そこで私は、大学受験を一つの”挑戦”と考え、自ら努力して合格をつかみ取り、自分を成長させたいと思ったので、自分が行きたい大学を一般推薦で受験することに決めました。このことを担任の先生や家族に報告したとき、「自分で決めたことだし、それだけ固い意志があれば絶対に合格できる」と信じて応援してくださいました。周囲の人たちからの応援は、私の勉強の原動力となりました。

とは言っても、指定校推薦ではないわけですから、必ず合格するとは限らないし、合否は国語と英語の筆記試験の点数と評定平均値で決まるものだったので、完全に全国の受験生との学力勝負でした。しかも周りの人たちは、どんどん指定校推薦で合格していったり、就職の内定をもらったりしていて、日に日に焦りや不安も募っていききましたが、何より自分を信じて前向きに勉強を続けました。また、私は一年生から定期考査で高得点を維持し、評定平均値を高く保てるようにしてきたので、入試では評定平均値としての点数が高く評価されました。自主的に勉強を進めるほかにも、進路指導室に行って赤本を何度も借り、志望校の問題の傾向と対策を徹底的に研究しました。そして入試本番では、私が今まで積み上げてきた努力、絶対に受かってみせるという意志などを解答用紙に全力でぶつけ、第一志望の大学に合格することができました。

### (10) 「進路選択を大切に」 (総合学科 → 松本大学 総合経営学部 観光ホスピタリティ学科)

私は、社会福祉士の資格を取得したいと思って大学進学を決めました。

第一志望の学校を決めるまでにとっても時間がかかりました。いろんな大学の特徴を見ていくことでどの学校にも魅力があって、自分には何があるのかが分からなくなったからです。松本大学に決めたのは私の興味のある分野がいろいろ学べる点でした。そして試験対策をしようと資料を見に行ったところ、益田清風高校からはこの大学を受験した生徒がいませんでした。当然、指定校推薦はなく公募推薦で受験することにしましたが、不合格だったことも考え、その次の受験についても調べながら対策をしました。試験は、筆記試験と面接試験でした。筆記試験は過去問題から出題傾向を分析しました。面接試験は、何の記録もなかったのが不安でした。先生に指導してもらいながら何回も練習しました。実際には、個人面接ということもあってか、会話(雑談)のように進みすぐに終わってしまったという印象です。

最後に私から、大学・専門学校に進学しようと考えている方へアドバイスです。何のために進学するのか。そもそも進学する必要があるか、という事をよく考えてほしいです。一番いけないのは、なんとなく進学することです。時間とお金がたくさん使われるので目的をはっきりさせておくことが大事です。例えば「資格取得のため」と考える場合でも、それなら通信講座の方が早く安く目的が達成できます。つまり「大学で学ぶ意義」を考えてほしいのです。

それから、進路の情報は多く知っておくことが大切です。いくら何かの能力に優れていてもどこで何をし

たいのかを答えられなければ意味がありません。興味のある分野・学校をとにかくたくさん調べて、オープンキャンパスなどのイベントに積極的に参加しましょう。実際に見て感じたことや大学の人から聞いた話は、噂として聞いたものとは大きく印象が違います。いろいろ見て、「コレや!!」と刺激を受ける学校があるかもしれません。そのような時によく考えてほしいことがあります。その1日と自分の長い将来とどちらが大切でしょうか。時間が経過して後悔しても何も解決しません。人生の目的を達成させるための進学なので、じっくり時間を使って考えてほしいと思います。

### (11) 「未来を輝かせるために今に全力を尽くす」

(総合学科 → 日本体育大学 体育学部 体育学科)

私は、中学の時の体育教師に走ることの魅力を教えられ、自分の自信が持てるものを見つけるきっかけとなりました。僕自身は体を動かすことは好きでしたが、学習は好きではなく大学進学をすることを考えて総合学科を選びました。評定も取りやすく、陸上にも専念することができた高校生活でした。毎日の練習でクタクタになってしまい、家庭学習は期待できない状態でした。文武両道の出来ない不器用な自分なので、電車の中の少しの時間でも向き合おうと思い取り組んできました。大学では体育教師になることと箱根駅伝出場の2つの目標があったため、おのずと関東の大学に絞られました。また、入試方法も私の強みを生かすことができる、スポーツ推薦を選択しました。

入試では、小論文と面接がありました。小論文では自分の主張を文にして相手に伝える練習を何度も何度も繰り返しました。書いていく中で有効なのが、一度書いた文を声に出すことです。声に出すことで、自分が伝えようとしていることがうまく伝えられてないことに気づくことができます。そのため、とにかくたくさん文を書くことに慣れることが大事です。

面接で大切な事は、初対面の人と会話をする事だと思います。面接と聞くと堅苦しいイメージを持つと思いますが、面接官との会話のキャッチボールなのでたくさんの先生や近所に住んでみえる方など工夫して多くの人と関わり、自分をアピールすることです。入試に向けてこのことをやってきたおかげで緊張することなく、堂々と話すことが出来ました。

将来の夢を叶えるために何をすべきかを考え、自分と向き合えるいい機会になりました。日々の積み重ねと挑む挑戦心が大切です。僕のようになかなか時間が作れないからそのまま終わるよりも挑戦して出来なくても、「次はどうしたらいいのか」と工夫することを自分で見つけ出すことも入試に向かうにあたって大切です。それを継続して繰り返すことで自分の成功への大きな1歩の糧となります。自分のやっていること、考えていることに自信を持って何事にも挑戦して夢を叶えましょう。頑張ってください。応援しています。

### (12) 「Conquer yourself rather than the world」

(普通科 → 金沢工業大学 工学部 環境土木工学科)

私は高三になるまで真剣に勉強したことがありませんでした。部活をやっている時は、部活終わりに部室で友達と話し、帰ったら宿題だけ済まして寝る。勉強しても学んだことを3ヶ月後には忘れていたような浅い勉強しかしていませんでした。

そんな僕も、大学で学費が安くなる生徒を選抜する試験に合格したいと強く思うようになり、そこから初めて真剣に勉強するようになりました。試験内容は面接、志望理由書、数IAだけだったので、数IAを完璧にしてやるという思いで勉強し、合格することができました。

まず、スマホのアプリはLINEだけにし、空いている時間は数学に費やすようにしました。家より学校の方が集中できたので、毎日残って勉強しました。幸い今年の清風は夜8時ぐらいまでなら教室を使って勉強することができました。6時頃から同じ階にほぼ人がいないし、広い教室で1人だけという空間がとても集中して勉強できる環境でした。だから、利用した方がいいと思います。

私は、黄チャートと参考書を並行して何周もやり、大切な事をまとめたノートを作りました。また、面接、志望理由書、数学などの事で多くの先生にほぼ毎日質問やアドバイスを貰いに行きました。1つ聞いたら3倍ぐらい教えて下さるいい先生ばかりでした。僕が合格できたのは、多くの先生の助けがあったからです。自分一人でやろうとせず、沢山頼った方が絶対いいです。その方が、記憶にも残るし、良いものができると思います。

試験が終わり振り返ると、自分もこんなに勉強で努力できるんだと感心すると共に、1年からこんな風に努力していたらより上の大学に行けたんじゃないかと後悔しました。もっと早く自分はこれだけ勉強を頑張る事ができる、と気付いていれば自信がついてよかったけど、試験後にやっと気付くことができました。私は、この試験勉強を通して自分を変えることができたと思っています。さらに、勉強に対する気持ちも変わりました。だから、僕みたいに3年になってからやるのではなく、早いうちにエンジンをかけましょう！「あの時あれだけ頑張れた」という自信があると、これからさらに頑張る事ができると思います。

最後に、目標や夢が明確だとその分頑張れます。目標を達成する為に、早いうちから真剣に勉強をやってみてください。僕はやっとけばよかったと後悔しています。でも、一つだけよかったと思うことがあって、僕は大学のことを誰にも負けないぐらい調べました。そのおかげで、面接は楽にいけました！勉強も必要ですが大学を調べる事もとても大事だと思います。高校生活を楽しまつつも、自信を持って頑張ってください。応援しています。

### (13) 「やる以外なかった」

(総合学科 → 岐阜市立女子短期大学 国際文化学科)

私は、総合学科観光産業系列で学ぶ中で、近年アジア圏からの観光客が増えていることを知りました。そこで、観光業で活躍するために中国語や韓国語を学びたいと思い、岐阜市立女子短期大学の国際文化学科を受験することを決めました。

私は、公募推薦で受験しました。受験内容は、小論文と面接と書類審査でした。面接は、高校入試の時よりもはるかに難しく、自分が言いたいことをいかに簡潔にまとめ、伝えられるかということが大変でした。私は、細かく話そうとして話がまとまらず、長くなってしまいがちだったため、担当の先生と何度も繰り返し練習しました。緊張した状態で話す練習も必要だと思い、他の先生にも協力していただき指導を受けました。また、休み時間には周りの友人と練習をしました。そのおかげで次第に慣れていき、すらすらと話せるようになりました。

小論文では、一度模試を受けた程度で詳しい書き方は全く知りませんでした。また、試験の中に要約もあり、慣れていなかったため本当に難しかったです。そんな状態でも自分なりにやれることを考え、小論文の本を買ったり、インターネットで調べたりしました。さらに、先生のご都合が良い時には必ず先生の所へ行き、指導をしていただきました。小論文は、自分の知識やその場のひらめきが大切なため、練習の分だけ上手になるという保証はありません。そのため、「これだけ頑張っているけど、もしも本番でかけなかったらどうしよう」という不安がありました。しかし、そんな私に母が、「今すごく頑張っているからあとは自信を持つだけじゃない」と言ってくれました。その言葉で、私は「今は余計なことを考えずただがむしゃらにやろう」と思い取り組みました。その日から一日一題必ず小論文を書き、空いた時間で本や新聞やニュース等から知識を増やせるよう努力しました。

私はこの受験を通して、たくさんの不安がありましたが、がむしゃらに受験勉強に取り組むことと自分で自信を持つことができました。大学入学後も自分の夢に向けさまざまなことに挑戦していきたいです。



#### (14)「後悔しない進路選択のために」

(普通科 → 岐阜県立下呂看護専門学校)

私は実習時間が多いところに魅力を感じ、専門学校への進学を決めました。数多くある専門学校の中から岐阜県立下呂看護専門学校を選出したのは2年生の時でした。たくさん悩みましたが、積極的にオープンスクールに参加したり先輩方に話を聞いたりしたおかげで早い時期から進路について考えることができたため、後悔のない選択ができました。また、母も様々な情報を集めてくれて、しっかり話し合いながら考えることができたのも後悔のない進路決定につながったと思います。

本格的に受験勉強を始めたのは3年生の夏休みからでした。それ以前も倍率が高く、入試も難しいと聞いていたため受験に対しての意識は高くもてていました。だから、受験対策を早くから始められたことは良かったと思える点です。私が行った受験勉強は、まず数学では教科担任の先生が作ってくださったプリントを解き、なるべくたくさんの問題にふれるように心がけました。そしてわからないところを放課後や土曜日に先生の所へ行き、教えてもらっていました。国語では夏課題や問題集を行い、特にパスポートを中心に行いました。英語も課題で出ている問題集を解き直し、英単語やvintageに力を入れて行いました。英単語は休み時間などの空いている時間に目を通すようにしていました。

しかし、受験勉強を始めたばかりの頃は、何から手を付けてよいかわからず内容の薄い勉強しかできていない日が続いていました。特に国語と英語は様々な参考書に手を付けても、身になっているかが不安になり、途中でやめてしまうということを繰り返していました。これではいけないと思い、教科担任の先生や友達に相談したり、自分の苦手分野を書き出したりしました。しかしそれでも不安は本番1ヵ月前くらいまで残っていました。今振り返ると、もっと早い段階から過去問に目を通すべきだったと後悔しています。私は本番1ヵ月前を過ぎたあたりから過去問に取り組み始めました。実際やってみると出題傾向が似ている部分などが毎年多くありましたが、私は取り掛かるのが遅かったため、納得できるまでやれませんでした。特に英語はアクセント問題や熟語で同じ問題が出ている年もありましたが、私は直前に確認するだけしかできませんでした。また、もう一つ後悔している点があります。それは毎日の朝学習や小テストを真面目に取り組んでいなかった点です。漢字や英単語、アクセントなどは、毎日積み上げていかなければならないと何度も思いました。さらに英語の熟語などは深いところまで問われたため、短い期間では学習しきることができませんでした。

私は受験を終えて多くの後悔もありますが、それ以上に達成感を味わうことができました。このように思えるのは、多くの人の支えがあったからです。毎日の放課後や休日も教えてくださった先生方や応援し続けてくれた人、毎日見守り支え続けてくれた家族のおかげで頑張ることができました。辛い日々でしたが、自分自身も成長させることができたので、これから先も頑張っていけると思います。

#### (15)「進路決定から合格までを通して」

(普通科 → 岐阜県立多治見看護専門学校)

私は最初、看護師とは全く関係ない仕事に就きたいと思っていましたので、3年生になって看護師になると進路を決めたときに、看護体験に一度も参加したことがなく、看護師の具体的な仕事内容についてもよく知らない状態でした。看護学校に進学すると決めたからには看護師について知っておかなければならないので、短期間で看護体験に参加したり、看護師の仕事について調べたりするなど、大変な思いをしました。何も知らなかったのも、何から調べたらいいかも分からず、各学校で何を見たらいいのかも分かりませんでした。当然ながら志望校も決まっていなかったのも、自分の家から通える距離にある学校のオープンキャンパスに参加し、徐々に看護師の仕事内容や、大変さ、やりがいなどを知ることができました。いくつか行った学校の中でも、公立で一番ときめきを感じた岐阜県立多治見看護専門学校を受験しました。私の成績でぎりぎり特別入試の受験資格を満たしていたので特別入試を受けました。今まで定期テストでは、ただなんとなくテスト勉強をして受けていたので、3年間ずっと同じような成績でした。ですから、3年生になってから

成績を上げようと思ってもなかなか上げられず本当に大変でした。定期テストは1年生の頃から少しでもいい点が取れるように頑張るといいと思います。

受験内容は、国語・数学・英語の三教科と集団面接でした。筆記試験に向けての勉強は学校で看護補習を受けたり、自分で参考書を買って学習したりしました。参考書は、G a k k e nの国語常識と英語を買いました。国語は、漢字が苦手だから買ったけど別に買わなくてもいいと思います。英語は、試験でよくでる熟語がたくさん載っていたしとてもわかりやすかったです。先生にもいいと言われたし、とてもおすすめです。あとは、先生からスーパー基礎の英語の本も借りました。私は英語がとても苦手で、どう勉強したらいいかわからなかったので英語の先生に相談をしてアドバイスなどをもらって勉強をしました。勉強を始めたころに比べたら少しずつ出来るようになってきたけどまだまだ十分な点を取ることができなかったのも、最後の一週間は自分の得意な数学に力を入れました。本番の日の朝にサッと見返して振り返りができるようにメモ帳などにまとめながら勉強しました。面接練習では、自分の担当の先生に面接官役をやってもらい練習しました。私は、話すことが苦手ですぐにどもってしまったり、泣いてしまったりして最後まで通すことができませんでした。ですから何回も何回も面接の先生と練習をし、少しずつ自分の話す内容の方向性も決まって、徐々にできるようになりました。ディスカッションはなかなか練習することができないので、とにかく周りの人の意見を聞いて、自分の意見に取り入れながら話して、協調性や自分の意見を持っていることをアピールしました。

自分の進路が全く決まっていなくても、いざ決まってからスムーズに受験に入るために、提出物やテストなどにしっかり取り組んでおくことが大切だと思います。焦らず、今できることをしっかりと続けていくことで将来につながると思うので、頑張ってください。